1021 うっ血性心不全における肝血流指標（K値）と赤血球沈降速度（赤沈）の臨床的意義

奥山 康男[1], 秋月 哲史[2], 真家 伸一[2], 松岡 康夫[2], 入交 昭一郎[2], 栗林 徹[1], 藤井 博史[1], 品川 丈太郎[3], 川村 陽一[3]
（市立川崎病院放射線科[1], 同 内科[2], 日本鋼管病院内科[3]）

うっ血性心不全における肝血流障害と赤沈との関係を検討した。 対象は正常健常者10例とうっ血性心不全患者25例で、赤沈および一般生化学、凝固機能を測定した。肝血流障害の指標として^{99m}Tc-PMTによる肝の時間活性曲線を求め、立ち上がりの指数関数で近似を行いK値(/ml)を算出した。 心不全の改善と共にK値は0.211±0.048から0.301±0.110と42.7%に上昇し、赤沈、ﾌｨﾌﾞﾘﾉｰｹﾞﾝも有意($p<0.05$)に上昇した。 重症心不全患者の赤沈は低値を示した。血流障害による肝機能障害に伴う血清ﾌｨﾌﾞﾘﾉｰｹﾞﾝの低下が、その一因であることが示唆された。

1022 標識長鎖脂肪酸（ＢＭＩＰＰ）経腸的投与後の健常成人におけるシンチグラム

丸岡 伸、山崎哲郎、坂本澄彦（東北大・放射線科）、高橋信雄（同・放射線部）、千葉敏雄（同・小児外科）、中村尚司（東北大・サイクロ）

新しい消化管脂肪吸収能評価法開発ために健常成人４名においてＢＭＩＰＰを経腸的に投与し、そのシンチグラム及び吸収代謝排泄動態につき検討した。ＢＭＩＰＰ(37-74MBq)を経管的に投与後経時的にシンチグラムを撮像し、またＴＬＤ法にて全身主要臓器の被曝線量を求めると共に尿中ないし各臓器の放射活性分布を検討した。また被験者の一部では高速液体クロマトグラフィを用いて血中及び尿中の代謝産物の同定を行った。ＢＭＩＰＰはヒトでも安全な経腸投与が可能であり良好なシンチグラムが得られ、各種病態下における腸管脂質吸収ないし代謝能の臨床的評価への応用は十分可能と考えられた。

1023 放射線粘膜炎の核医学的検討

玉村 裕保、大口 学、東 光太郎、利波 久雄、興村 哲郎、山本 達（金沢医大 放）

我々が考案した放射線粘膜炎治療薬（アルロイドG+サルコート）20mlに99m-Tc DTPA37MBqを混入し正常ボランティア10名・急性放射線粘膜炎患者35名にTaellifer の方法に準じ投与し,MTT,T1/2、噴門部到達時間及び投与10分後像より食道における異常RN集積の評価を行った。放射線粘膜炎患者ではMTT3.71秒,T1/2 10.68秒,胃へのRN到達時間6.20秒でこれらの値は正常者群との間に有意差を認めなかった。投与10分後像では放射線粘膜炎群は全例放射線照射領域に一致した異常RN集積を認め、この異常RN集積部の全食道RNカウント比は52.48％・投与前RN比は6.45%で正常群との間に有意差を認めた。この事よりこの新治療薬にRIを混入させるこの方法は放射線粘膜炎の早期発見、局所評価に有用な手段の１つと思われた。

1024 アマレックスMAB Free T_3による血中Free T_3濃度測定の基礎的、臨床的検討

浦城淳二、松村 要、中西 篤、笹岡政宏、中川俊男、中川 毅（三重大 放）

抗T_3モノクローナル抗体を用いたFree T_3測定キット（日本コダックダイアグノスティックス社）により血中Free T_3濃度を測定し、基礎的、臨床的検討を行った。 本キットの精度、再現性は良好（CV6%以下）であった。正常値は2.5-4.4 pg/ml (mean±2SD)であり、甲状腺機能亢進症、および、低下症を分離することができ、妊娠はほぼ正常域内に分布した。従来のアマレックスM Free T_3キットとの比較では$y=1.07x-0.81$、$r=0.94$と良好な相関が得られた。本キットにより各種疾患、状態での甲状腺機能を正確に診断できると考えた。

1025 アマレックスMAB Free T_4による血中Free T_4濃度測定の基礎的、臨床的検討

中川俊男、松村 要、中西 篤、笹岡政宏、浦城淳二、中川 毅（三重大 放）

抗T_4モノクローナル抗体を用いたFree T_4測定キット（日本コダックダイアグノスティックス社）により血中Free T_4濃度を測定し、基礎的、臨床的検討を行った。 本キットの精度、再現性は良好（CV10%以下）であった。正常値は0.92-1.51 ng/dl (mean±2SD)であり、甲状腺機能亢進症、および、低下症をよく分離することができた。 妊娠、low TBG症ではほぼ正常域内に分布した。Gamma-Coat Free T_4 RIAキットとの比較では $y=1.06x-0.18$、$r=0.95$と良好な相関が得られた。本キットにより各種疾患、状態での甲状腺機能を正確に診断できると考えた。

1026 標識抗体法(Amerlex-MAB FT3)による血清FT3濃度の測定

増井裕利子、才木康彦、太田圭子、尾藤早苗、大塚博之、壇 芳之、山口晴司、伊藤秀臣、日野 恵、池窪勝治 (神戸市立中央市民病院核医学科)、服部尚樹、石原 隆、森寺邦三郎、倉八博之 (同内分泌内科)

標識抗T3抗体を用いるFT3測定キット (Amerlex-MAB FT3)についてAmerlex- M FT3と比較検討した。本測定法は37℃、30分の反応時間で、簡便に測定でき、intra-assay, interassayのCVは2.5～10%, 3.8～7.4%であった。Amerlex-M FT3では血清アルブミンおよびT3自己抗体の影響を強く受けるのに反し、本法ではこれらの影響をほとんど認めなかった。本法FT3の正常域は2.51～4.01 pg/mlであり、甲状腺機能亢進症と低下症の分離は良好であった。妊娠初期と中期間で有意差を認めず後期で若干低値であった。本法FT3値とAmerlex-M FT3値は良好な正相関 (n=81,r=0.96, y=1.11x-0.65)を示した。

Presented by Medical*Online